

矢野大和新聞

はなつらつ



皆さんこんにちはお元気で過ごしの事とお察しいたします。大和新聞の準備号を発行するにあたり一言御挨拶申し上げます。

さて早いもので今年ももう少しで終わろうとしております。事務所を構えて丸4年、口演の先々でたくさんの方たちと出会い、友人になった事をきっかけにこのデジタルな時代に超アナログな「大和だより」を作る事に致しました。(しかしさすがにパソコンは使っています。)私も元気で毎日口演して回っています。今年も12月までで365回以上口演が出来そうです。これも皆さまの応援のおかげです。ただただ感謝です。私と友人になる方々もお陰

様で100名を超えるようになり、少しずつ増えています。その方々に大和をより知って頂く為の方法として新聞を発刊する事になりました。出来るだけ写真を多くして文字を少なくします。御笑読頂き御感想等お寄せ下さいませ。

さて御存じの通り、日本は大変な時代に入りました。戦後の復興後飽食時代が続いたために縄文時代から明治時代までの発展をひと世代でそれ以上のものにしてしまいました。このあまりにも加速度的な文明発展に我々の心が追いつかないことによって、起きてはならない問題が様々な面で起っていると思います。そのことを解決するのは人間が太古から変わらないもの「お互いの心」「親や子、国を思つ心」「そして神道の心」等が鍵を握っていると思つのです。そんな「心」の断を「笑い断」にして、もつともつと全国で話したいと思つています。皆さまの周りで面白い話、また感想等でも結構ですので送って頂けたら有り難いです。どうか皆様今後とも応援をして頂き、私の口演活動の御支援をしてくださいませ。皆様の御期待に添えますようスタッフ一同頑張りますので、宜しくお願い致します。

友人の会3300人の会
現在100名突破



創刊準備号
平成23年11月1日
発行:矢野大和事務所
発行責任者:矢野大和

大和霞が関で口演



なんと元小役人の宇目町職員が霞が関の国土交通省の公務員40名の前で口演して参りました。「笑いでまちづくり」と題して80分もの口演をさせて頂きました。大分県の観光をPRしようとして早速卑怯な小道具、奥の手の「カ

ボス」を一番前に座っている人に差し上げるといきなり驚いた。観光庁の職員の方。もらったのが「嬉しそうであった」と思った矢先にこの人が慌ててカボスを落としかけた。これがバカ受け。すっかり雰囲気か和んでしまった。何よりこの方のお陰で「つかみ」はOK。後は普段通りしゃべって終わった。良く笑ってくれたが二度とお呼びは来ないだろうと思うが、しかしそれは相手が決める事。楽しみに待つことにしよう。しかしまあ、私のような者に声がかかったものだ。観光庁長官の溝畑氏より直接私の携帯電話に掛かってきたことが生涯の驚きの一つだ。観光庁総務課調整室の広瀬さん本当にお世話になりました。沖縄出身の新垣さん、3300人の仲間に入つて頂いてありがとうございます。来年CDを出して頂けるビデオミュージックの前田さん、NHK文化センターの福邊さんも聴講して頂いた。いつか感想をお聞きしたいものだ。とにかく再チャレンジしたい霞が関。



知事の前座



隣の女性は
スタッフの松本です

現在の大分県知事は広瀬勝貞（ひろせかつさだ）さんといえます。声を出して読むと舌を噛みそうですが、私がとても尊敬をしている方です。知事とお会いしたのは、知事公舎で秘書の方々に落語を一席やったことが事の始まりです。その後本やCDに知事の事を話題にする許可を頂きました。先日、大分市西部防犯協会の荒金会長より頂いた口演時、出席する事になっている知事の到着が遅れるとの事。またその直後、日田高校同窓会の浦塚さんの紹介での口演会で、出席することになっている知事の到着が遅れるとの事。偶然にも10月中に二度同じような機会を得た。口演中で一番まずいのは、知事

が到着した瞬間に漸が終わる事。こういう時はお見えになつた時に、「知事、あと5分しゃべりますが、大丈夫ですか？」と聞く事が大事。そういう事があつて主催者からも褒められた。くれぐれも来賓が来たらすぐに止めるような事をしないで、5分位漸をすることをお勧めします。そして「来賓が来るまでつないで下さい」と講師に言ってくれる主催者と私の関係者に感謝です。

9月1日 被災地にて口演



やっと残った2本の木
かつてはすべて民家があつた所

岩手県野田村という地域で口演した。別に野田総理の出身地ではないが、

もし震災を受けてなかつたら小浜市と同じように野田村で町おこしができたのかも知れない。長続きするか心配ですが、大きな防波堤が無残にも津波で壊され、建物はあとかたもない。テレビで見る映像と実際に見る光景とが余りにも違う事を体感した。震災地の事を思うととても笑っていられない。しかし笑うネタしか持っていない。宮崎県の口蹄疫で苦しんだ方々が見事に立ち直っていることを話させてもらった。熊本、大分で椎茸菌、コマを生産している森産業さんの招きで口演をした時、気に入って頂き、岩手の椎茸生産者の方々の前でしゃべることになりました。本当に縁というのは意外なもので、大分↓岩手へと胞子が飛んだのでした。椎茸生産者の方々が面白くなくても笑ってくれた。心の中にボランティアの精神がある。これを奉仕と言つ。

友人3300人の会 100名突破！

募集を始めて2カ月で100名突破。このままいったら5年で目標達成だ。しかし中々そうはならないと思うが、1日に一人作って行きたいと思つている。この3300人の夢は大きくて皆で共有できるサイトを作つて町づくり、教育、福祉、老後、笑い等と言うテーマでいろいろな意見を交換したい。最後仲間全員が大分県で一堂に会して 大忘年会を開きたい。

ブログに書けない ここだけの話

何日かに一度ブログに日記のような物を更新していますが、が折角の新聞ですからここだけの事を書かせてもらいます。私の机には箱がたくさん雑然とならんでいます。その箱の中には短冊が入れられています。この短冊はその日にあつたこと等ネタが書かれています。いわゆるネタ帳、しかも妻、岡嶋、松本、赤峰（時々スタッフ）への指示が書かれていてスタッフ全員から恐怖の短冊と言われています。その指示は急に思いついたことが多くて、非計画的なので、岡嶋等は震えています。私としては滅多にスタッフに会う時間がないので短冊で会話をしているのです。岡嶋よりももっと震えているのは、松本です。彼女は週に2度位しか事務所に来ませんが、その都度短冊の山に出会います。どうして私の指示の短冊が溜まるのか、それは簡単。私の字が走り書き過ぎて読めないから。妻はさすが読める。「なぜ大和さんは短冊が好きなんですかね？」妻が一言いったら、「それはね、七夕生まれだからよ。」ホントの話です。

来年全国CD第2弾収録決定

テーマは「ザ・大分県」
大分県のネタを入れたCDです。
制作：ビデオ・アーツ・ミュージック
詳細は近日お知らせ致します。